



## 海外

## 稲門会の躍動

Overseas TOMONKAI

登録稲門会 検索

現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。  
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

### 会長メッセージ

スイスは欧州の真ん中に位置する人口約850万人、九州とほぼ同じ面積の小国です。四つの公用語があり、人口の約4分の1は外国人。欧州連合(EU)とは一線を画して独自の通貨を持ち、国民投票制度や永世中立といった独特の政治体制をとっています。

スイスの南西部に位置するジュネーブには多くの国際機関があり、時計産業、観光業、さらには伝統的なプライベートバンクが有名です。主要国からの直行便はほとんどなく、この交通の不便さが幸いして、ひっそりと世界の富裕層の

資産を守り続けてきたともいわれています。

ジュネーブ稲門会では約20年前の設立以来、会員間の親睦を深める行事を数多く行ってきました。会員の職業もさまざま、最近では日本からの留学生も積極的に参加して会を盛り上げてくれています。現在は残念ながらコロナ禍で活動も制限され、海外からの入国制限も継続中ですが、再び国際交流ができる日を待ち遠しく思います。会員一同、校友の皆さまのお越しをお待ちしています！

村田洋一(1984年政経)

### 会員からのメッセージ

ジュネーブはこぢんまりしていますが、国際機関や各国の大使館なども多いことから、国際色がかなり豊かな街です。国籍の違うカップルが多く、母語、英語、フランス語と2カ国語以上を使用して暮らしている家族も多く見られます。当会でも海外生活の長い会員が多く、イベントに参加するといろいろな話が聞けます。校友はもちろん、早稲田からの留学生も大歓迎です。フランス語圏だからといって、ちゅうちょせずいらしてください。

松尾嘉之(1987年法学)

当地でまさか拳を振り上げ、「早稲田～早稲田～」と歌う機会があるとは思っていませんでした。国際都市として知られるジュネーブ。街中でも職場でも友人たちの間でも、みんな国籍が違って当たり前の中、同じ早稲田出身の皆さんに出会えると、それだけでとてもうれしくなり、昔からの知り合いだったような親近感を持ってしまいます。卒業後も、そして海外でも、稲門会を通じてさまざまな分

野で活躍されている皆さんとつながることができるのは、早稲田の魅力の一つだと思います。

矢澤信恵(2003年文学)

稲門会に参加して、スイスにおけるさまざまな分野で活躍する、多くの早稲田同窓の方々を知り合うことができました。国際機関においても、早稲田出身の方には、本当によくお会いすることがあります。今や世界のどこに行っても、稲門会があり、同窓の方々とのネットワークを築けること、これは早稲田生としての大きなベネフィットだと思います。これからも、世界のいろいろな場所で、早稲田の絆を大切にしていきたいです。

及部周介(2009年法学)

国際機関や各国代表部の建物がひしめくエリアに位置する国際開発研究大学院(IHEID)。100カ国以上から学生や研究者が集う、国際都市ジュネーブを象徴する大学院で、早稲田大学の海外協定大学の一つです。日本での知名度は低いですが、卒業生は国際協力業界に限らず多様な分野で活躍しています。スイスのフランス語圏で生活しつつ英語にて学位を取得するというのはいかがでしょうか？ 勉学の合間にはジュネーブ稲門会での交流に心癒やされます。

浦野 響(2018年国際教養)



2019年秋、ジュネーブ近郊のフランスの会員宅で開催した、バーベキュー・おすし・おはぎパーティー

### ジュネーブ稲門会について

ジュネーブ稲門会は約20年前に設立され、スイスのジュネーブとその近郊、およびフランスに在住する校友や現地に留学中の在学生の間で親睦を深めてきました。会員数は20人前後と小規模ではありますが、国際機関や政府機関で働く会員が多いことが特色です。また、ジュネーブ大学をはじめ、多くの研究・学術機関が集まる土地柄、例年複数の在学生が交換留学生として滞っています。

少人数の会ならではのアットホームな雰囲気大切に、家族同伴で会員宅でのバーベキュー大会や、ジュネーブ三田会との合同懇親会などを開催しています。新型コロナウイルスによる会合自粛期間も、オンラインの親睦会などを通じて活動を続けています。

上月 光(1996年政経)

### ジュネーブの魅力

は公私ともに生活を楽しんでいます。

上月 光(1996年政経)



(上)ジュネーブにある国際連合欧州本部  
(下)レマン湖名物のジェッドー(大噴水。船の後方)

チューリッヒに次ぐスイス第2の都市ジュネーブ。レマン湖南西のほりにある美しい街で、その東、西、南ともにフランスに囲まれて国境を接しているため、越境通勤者も多いフランス語圏の都市です。また、戦前の国際連盟・戦後の国際連合をはじめ国際機関が多く置かれており、世界トップクラスの政治・学問の専門機関が集まるエリアとなっています。一方で、レマン湖の南岸には長い伝統を持つプライベートバンクが集まり、世界の富裕層を相手に活動しています。

スイスの人口はおよそ850万人、ジュネーブ州に至っては50万人程度と、日本の地方都市とさほど変わりません。ジュネーブ近郊には4,000人弱の邦人が居住しており、また欧州アルプスへの玄関口として、例年多くの日本人観光客が訪れます。

街の中心部にも数々の公園があり、郊外には豊かな自然が広がり、馬や牛、羊などに出会えます。目の前に広がるレマン湖はもちろん、車で30分も走ればスキー場やゴルフ場もある魅力にあふれた場所で、ジュネーブ稲門会のメンバー



2019年夏、会員宅で開催した三田会との合同パーティー